

第 53 回東北・新潟・北海道ブロック

点字図書館等連絡協議会 音訳部会研修会に参加して

会期:9月7日～8日 主会場:小樽市市民センターにて

□9月7日 午後から 部会開催

第一部会 「その先の、活動へ。」～サピエで広がる音声情報の世界

講師:北海点字図書館 顧問 姉崎 久志 氏 / デイジー利用者 田中 美恵子 氏

○姉崎氏の講演から 抜粋 ～私が考える読みの基本～

- ・聴かせるのではなく 聴いて分かる読みを目指しましょう
- ・読むのではなく、伝えようとする気持ちで
- ・迷った時は利用者の立場に立って考える

○デイジー利用者の田中さんの話

- ・間が大切
- ・呼吸音が聞こえると嫌だ

第二部会 「各館 団体の現状と今後」

四つの団体から報告

- ・ボランティア募集に苦勞している。現役のアナウンサーに講師になってもらい 受講生を増やす試みや、体験会・ワークショップなどを開催している
- ・講師や校正者 編集者の増員も課題

第三部会 「市立小樽美術館・文学館を巡る」

文学館の特別展示

「山田正紀氏の『小樽が舞台の小説『人喰いの時代』』他五冊の展示を見学

□9月8日 講演会

「利用者にとってよい録音図書とは何か、音訳の基本とこれから」

講師: 日本図書館協会障害者サービス委員会委員長

埼玉県立久喜図書館司書 佐藤聖一氏

(佐藤さんは小学校教諭 失明のため退職されて現在に至る)

I 利用者にとってよい録音資料とは

- ①正しい音訳で読まれている
- ②読みが早すぎたり遅すぎたりしない
- ③音の大きさがちょうどよく一定している など

II 悪い読み

- ①読み口調になっている(普通の日本語の話し方になっていない)
- ②「楽読み」になっている
例: 文頭の音が低い
まとまりと関係なく自分の都合で息をしている
助詞を伸ばす・・が～ ..に～

III 音訳ボランティアに訴えたいこと

- ①相手に伝える気持ちで読む
- ②楽読み、癖読みにならない
- ③図表の説明等、音声化処理が必要なものは音訳者の技術が必要

大会に参加しての感想

- ・部会、講演会共に貴重なお話を聴けて良かった。 ・交流会の時間がもっと欲しかった。
- ・新潟県からの参加者は 三名と少なかった。

来年は青森県です♪是非皆さん参加しましょう^^